

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Review)

博士の専攻分野の名称 (Degree)	博士 (学術)	氏名 (Author)	佐々木 孝博	
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当			
論文題目 (Title) 情報空間におけるロシアの安全保障に関する一考察 —戦略、実施体制及び事例研究を中心に—				
論文審査担当者 (Dissertation Committee)				
主査	(Committee chair)	教授	永山 博之	印
審査委員	(Committee member)	教授	西谷 元	印
審査委員	(Committee member)	教授	江頭 大蔵	印
審査委員	(Committee member)	慶應義塾 大学教授	土屋 大洋	印
〔論文審査の要旨〕 (Summary of Dissertation Review)				
<p>本論文は、ロシアが関与したとみられる近年のサイバー攻撃事例に鑑み、情報空間における安全保障上のロシアの狙いというものを明らかにすることを目的にし、主として、情報安全保障戦略の一次資料を丹念に読み込むことから研究を試みたものである。</p> <p>第1章では、ロシアのサイバー戦略の詳細及びロシアが他国と締結した協定の詳細とそれらの狙いについて考察している。第2章では、ロシアのサイバー戦略を具現化するための安全保障会議などの国家体制・態勢及び組織について考察している。第3章では、近年、ロシアが推し進める「ハイブリッド戦」の狙いを、主としてロシアの立場から考察している。第4章においては、「ハイブリッド戦」の中核と位置付けられる「影響工作」について、「欧州ハイブリッド脅威対策センター」などがまとめたレポートを基にその詳細を明らかにしている。第5章においては、ロシアがこれまで推し進めてきた核戦略とサイバー戦略の類似性について考察している。第6章では、サイバー空間における戦いを推し進めるロシアが、2019年頃より危惧しはじめた「サイバー空間における脅威と核の脅威の関連性」について考察している。第7章では、ロシアが近い将来、サイバー空間においてAI（人工知能）を如何に適用していこうとしているかを、「AI発展戦略」を中心に考察している。</p> <p>これらの考察を総括すると、以下のとおりである。</p> <p>ロシアは情報空間（サイバー空間）において、綿密に脅威分析を行い、戦略を策定し、それを具現化している。そして、その戦略を具現化するためには、どのような国家体制が必要なのか、どのような枠組みで施策を実現すればいいのかを検討した上で、ストーブ・パイプに成りがちな国家組織や関連する民間組織を統制・調整するために、「国家安全保障会議」の枠組みを効果的に利用している。また、情報空間において戦うための組織としてロシア軍に「情報作戦部隊（サイバー軍）」を創設した。同部隊は、サイバー攻撃や攻勢的なプロパガンダ活動の実施などを通</p>				

じ、情報空間における優越を確保するために創設された実働部隊とみられる。

さらに、近年のロシアは、「ハイブリッド戦」という戦い方を打ち出し、新たな世代において国益を確保するための戦いを実行に移している。その戦いにおいて重視されるのは、非軍事手段であり、非軍事手段と軍事手段の割合は4：1で圧倒的に非軍事手段の占める割合が大きいとしている。ここで特に重要視されるのが、「影響工作を中核とした情報戦」であり、影響工作での戦いは、陸・海・空・宇宙の「実体領域」、サイバー空間を主とする「デジタル領域」及び米軍が提起する「電磁波領域」に引き続く、第7の領域「認知領域」での戦いとも言えるだろう。

しかしながら、非軍事手段を重視する戦略の中においても、ロシアは核戦力を抛り所と考えている。ロシアが重視する非軍事手段（特にサイバー空間での戦い）において、その脅威が核の脅威にエスカレートする可能性を非常に危惧していることが明らかになってきた。それを、国際枠組みや条約によって抑止しようとも考えている。

これらの現状に加えて、ロシアが近い将来、サイバー空間においてAI（人工知能）を活用し、それを如何に軍事適用していこうとしているかを、2019年10月に「AI 発展戦略」として内外に示した。ロシアは、今後、情報空間（サイバー空間）における安全保障を含めて、ゲームチェンジャーたる技術のAIを最大限に活用し、米国・中国が先行する覇権争いに割って入ろうとしている。

本論文は、ロシアの軍事戦略という観点から、情報空間、サイバー戦が軍事戦略、戦争の全体像の中でどのように位置づけられているかを、ロシア連邦、ロシア軍の公文書、主要軍人の論文、講演録等を活用して明らかにしたものである。新しい問題を十分な資料的裏付けをもとに分析しており、博士（学術）の学位を授与されるに値する研究である。

備考 要旨は、1,500字以内とする。